

# ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科  
梅本 佳子

## 教育の責任

科目名	対象 学年	受講 人数*	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
留学生日本語 A1	1-4	13	講義	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
留学生日本語 A2	2-4	14	講義	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
留学生日本語 B1	2-4	13	講義	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
留学生日本語 B2	2-4	13	講義	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
日本語リテラシーA	3-4	13	講・演	必修	入門科目 (1年次で履修する教養系科目)
日本語リテラシーB	1	13	講・演	必修	入門科目 (1年次で履修する教養系科目)
日本語演習 A	1	31	演習	選択	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
日本語演習 B	2	13	演習	選択	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)

## 教育の理念

留学生が大学において、専門的な内容を扱う講義を日本語で学べるよう、より高度な日本語を身につけることを目標とする。また、一方的な知識伝達ではなく、学生同士で相互に学び合い、学生自身の気づきにより自己修正できるよう道筋を示す。

言語知識の習得のみでなく、その背景にある文化や思想なども学習を通して学び、学業や留学生活における異文化理解の一助となるよう努める。

## 教育の方法

教師からの知識伝達に留まらないよう、学生相互の協働学習や、学生自身が自身の課題を評価する活動を授業で取り入れた。

【日本語演習 A】では、学生間の相互学習や自身が書いた文章を客観的に捉え、自己修正ができるよう、以下の内容を授業で実施した。

①学生自身が自分の書いた作文をインターネットの作文評価システムで自動評価し、自己修正の入り口とした。②教師の一方的な添削指導にならないよう、学生同士がお互いの作文を読み、評価やアドバイスをするピア・レスポンスを行った。③ループリック評価を参照しながら自分の書いた文章を自己修正するようにした。

なお、【日本語リテラシーA】【留学生日本語 A】【留学生日本語 B】は複数教員の共通担当科目となっており、個人の教育方法と全体で共有する教育方法との線引きが明確でないため、ここでは取

り上げない。

### **教育の成果 および 今後の目標**

【日本語演習 A】では、ピア・レスポンスの活動自体に、学生間であまり積極的な交流や意見交換が生まれなかった。また、相互に作文を読み合い、評価・提案をさせた結果、不要な修正を提案してしまうといった問題も見られた。しかしながら、お互いの作文を読み合うことで、作文のアウトラインが整っていなかった学生が、自分の作文の修正すべき点に気づき、第二稿では自分で修正して提出するなど、わずかながら成果が見られた。また、ルーブリック評価に合わせて自分の作文を見直し、修正できる学生も見られた。

現在までのところ、協働学習の成果は個々の学生の取り組みや日本語のレベルによってかなり差が出ており、全体的な成果があったとは言えない。学生の協働学習への理解も十分だったとは言えず、今後は丁寧な導入を心掛け、学生同士の協力と学び合いを授業で実現できるよう取り組む。

### **参考資料**

- ・学生の提出作文（第1稿と最終稿）
- ・提出課題（自己評価記入表、相互評価記入表）
- ・最終レポート